

次期科学技術振興計画における重点化プロジェクト(案)

考え方

- 「第4章」で掲げた計画の基本目標と将来像の実現を図るためには、産学官金連携の強化を図りながら、技術シーズの開発から事業化・実用化まで一貫した推進体制のもとで、積極的な取組を展開していくことが必要。
- このため、科学技術が本道の独自性や優位性を発揮し、その将来像の実現に貢献できるよう、概ね5年間を目途に、道や関係機関が力を合わせて、特に推進する研究開発分野や取組を重点化プロジェクトとして設定。

重点化プロジェクト

【プロジェクトの構成】

「食・健康・医療」、「環境・エネルギー」、「先進的ものづくり」といった3つの分野に加え、これらに共通する基盤技術として、第4次産業革命のイノベーションを横断的に取り入れていく「AI・IoT等利活用」分野の重点的な展開を図る。

◆「食・健康・医療」分野

- 食のバリューチェーンの構築
 - ・ 農水産業の生産性の向上(ロバスト性(強健性)の強化やスマート農業の推進等)
 - ・ 食の付加価値の向上(生産・製造・加工、流通等の各段階)
- 健康科学・医療融合拠点の形成
 - ・ ヘルスイノベーションの推進
 - ・ 先端医療・医学の研究開発

◆「環境・エネルギー」分野

- エネルギー関連の実証、開発プロジェクトと生産開発拠点の集積
- エネルギーの地産地消
 - ・ 「エネルギー自給・地域循環システム」の構築など
- エネルギーの効率的利用～徹底した省エネルギー
 - ・ 寒冷地型スマートハウスの街区形成を目指した取組の促進など

◆「先進的ものづくり」分野

- ものづくり産業と1次産業等の連携による生産性の向上
 - ・ 1次産業の生産・加工・流通過程における効率化や省力化、品質向上 など
- 自動車の自動走行に関する研究開発の推進
- 航空宇宙分野における研究開発・実証

◆「AI・IoT等利活用」分野

- 産学官連携による先進技術の事業化やデータの利活用
 - ・ データ収集・蓄積、解析、セキュリティなど研究開発を幅広く推進
- データ・サイエンティストなど専門人材の育成
- AI・IoT等の利活用による地域社会の活性化
 - ・ AI・IoT等を活用した高齢者見守りや交通施策選択システム、産業振興施策等行政を支援するツールの開発 など

推進に当たっての基盤的な力

- 本格的な産学官連携の推進
 - ・ 「組織」対「組織」の共同研究を活発化することによるオープンイノベーションの推進 など
- 地域におけるイノベーションの創出
 - ・ 産学コーディネート機能の強化のための産業支援機関の専門人材の育成
 - ・ 「北のものづくりネットワーク」の活用、金融機関によるリスクマネーの供給促進 など
- 科学技術人材の育成・確保
 - ・ マーケットインでの発想、法務に精通し、技術シーズの事業化を支える、人材の育成・確保 など